

現	場	は
見	た	！

システム管理編

内 容

<システム管理編>

1. 会社の PC を社外から安全に利用できる仕組みが無いので困っている
2. バックアップやサーバ管理に時間を取られる様になってきた
3. ウイルス対策が面倒になってきた
4. 通信料と PC 保守料が適切な値段なのかが分からない
5. Windows95 で構築したシステムが最新の OS で動かないので困っている
6. そろそろ PC の利用ルールが必要です
7. システムは2重化しているからバックアップは要らない。

1**会社の PC を社外から安全に利用できる仕組みが無いので困っている**

これだけ無線 LAN や PHS 接続が身近になってきますと、会社の作業を安全にどこからでも行いたいと思うようになります。特に中小企業の場合、スタッフが限られていますので要望は強いものがあります。

喫茶店や自宅から安全に会社の PC にアクセスし、その PC を直接操作。当然、全国の出張先からもアクセス可能です。当社ではこの課題について、4 年間程度自社で実際に実験を行ってきました。ここ 2 年間は実用に供しており、必要不可欠な機能となっています。

仕組みはこうです。会社に自分の PC が社内 LAN 接続されています。通常はこの PC を会社で利用しています。社外に出ますと、ノート PC から PHS、無線 LAN を利用して、いつも利用している会社の PC 画面を操作します。メールは、どこからもチェック出来ますし、グループウェアにより会社の動きもチェック可能です。日報管理システムにより社員の進捗もチェックできます。会社にいる時と全く変わりません。通信はインターネット VPN を利用しており、通信は暗号化されています。また、重要なデータは会社の PC にありますので、万が一ノート PC を紛失しても情報漏洩は大丈夫です。

あなたの会社では、喫茶店や自宅から会社の仕事を行いたいという要望はありませんか？まず社長の行動が制限されなくなります！

2

バックアップやサーバ管理に時間を取られる様になってきた

中小企業のシステム開発を多く行ってきました。多くの会社はサーバ設備を自社に置いて管理することからスタート。しかし今は、当社にそのサーバを預ける会社が多くなってきました。なぜかというとならサーバの管理が面倒になったからです。サーバの管理には

バックアップ作業
基本ソフトの更新作業
機器故障の対応

などがあります。機器に対し手作業が伴うものは遠隔では操作できません。ですから、サーバごと当社にアウトソーシング、PC とプリンタの購入と設置だけを行っています。当社は東京秋葉原にあり、一番遠い顧客は山口県、一番近い会社は東京神田です。当然ですが、両者の距離の差を感じさせません。場所はどこでも可という事になります。

業務システムを格納するサーバは、専用である必要はありません。数社で共有することで初期コストも低く抑えられています。

もし、あなたの会社でサーバを設置して管理していたらそのコストを計算してみてください。老朽化を理由にシステム更新を迫られていませんか？日々のバックアップの工数がどの位掛かっているのでしょうか？システムごと、私たちにアウトソーシングしてみませんか。きっと今よりコストが下げられるはずですよ。

3 ウイルス対策が面倒になってきた

ウイルス対策は厄介で、対策・駆除に大きな工数が掛かります。最近、新種のウイルス対応指示が多く困ったものです。ウイルス対策の日常業務では次のことをしています。

ウイルスワクチンソフトを管理するサーバを設置
利用者の各 PC にサーバからワクチンソフトを自動インストール
毎週昼休みに各自の PC でワクチンソフトが動作したのかのチェック
ワクチンソフト用ウイルス除去パターンファイルのインストール
インターネットでウイルス対策注意事項の閲覧と事前の対策を実施

ある会社はこれらの業務を当社に委託したことにより、日常のウイルス対策業務から開放されました。サーバで管理していますから個々の PC で対策が行われていないという事もあります。

もしあなたの会社がウイルス問題で大きな工数を要しているのであれば、ウイルス対策業務を当社にアウトソーシングしてみてもいかがでしょうか。

4 通信料と PC 保守料が適切な値段なのかが分からない

通信コストの抑制と PC システムの保守費用の正当性について、私たちは顧客とメーカ、システム開発会社の間に入って保守金額の正当性をコンサルしました。PC システムの保守金額はこれまで大変不透明なものでしたが、それを論理的に双方(サービス提供者と利用者)で定義することで保守費用はすべて安くなったのです。また、老朽化に対するシステム更新提案も不透明な場合が多く、その提案内容の正当性を評価する必要があります。やらなくて良い更新も勧められているかも知れません。

通信料についても各社サービスの違いの調査、通信方式を変更することで安くなります。

あなたの会社で保守料、通信料について不透明感を感じたら私たちにご連絡ください。月々の支払額は下がるかもしれません。

ちなみに当社のシステム維持保守契約では、日報入力時に保守した時間を集計し請求しています。保守実態を正確に顧客にお知らせする努力をしています。

あなたの会社が支払っている保守委託会社から保守料に対する作業時間や名目は明確ですか？

5

Windows95 で構築したシステムが最新の OS で動かないので困っている

PC やサーバの基本ソフト（OS）は数年単位で更新されています。今、5 年位前に開発されたシステムが PC の買い替え時期と重なり困っています。どういう事かといえますと、10 年前の OS は Windows95 です。現在はもう販売されていません。そんな中で、Windows95 の時に専用ソフトを構築した会社が困っているのです。前提となる OS が無いのですから！（2002 年時点）

運用を継続させるためには現在の最新の OS でシステムを作り変えなければなりません。また大きなコストが発生してしまいます。

私たちは、この様な問題に困っている会社に「仮想 OS の導入」という方法を使って、現在の最新の OS で Windows95 のシステムを動作させています。運用は問題なく継続しています。この様な老朽化問題は、PC を使う以上考えに入れておかなければなりません。この会社では、今回は延命措置を講じましたが、コストを最小化しながら新しい OS に対応させるプロジェクトも進めております。

システム開発の際、保守契約の中で「システム寿命」をよく考えて投資する必要があります。また、データの移行は最低限行われることを考えておかなければなりません。

あなたの会社では、この様な事態で困っていませんか？今システム変更をすべきか、必要が無いかを私たちと一緒に分析してみませんか？

6 そろそろ PC の利用ルールが必要です

つい最近まで、PC は共同で使われていました。しかし、安価になったことや、メールなどが普及すると、ひとり一台の環境に近づいていきました。そしてそれらは LAN に接続され、会社のデータ（取引先リストなど）は共有される時代になってきました。

そんな中で、PC は個人でも所有され会社 PC と個人 PC が区別されない状況が見受けられます。個人 PC を勝手に会社 LAN に接続するケースや、会社情報が双方の PC に入っていたりします。USB メモリーで会社情報を自由に持ち歩いています。また、会社ではインターネットとメールの利用が許可されていますから会社の業務と私用利用が不明確になってきました。会社情報が分散することは、大変危険です。

そろそろ、利用規約の取り決めが必要でしょう。社員との機密保持契約は、就業規則との連動も必要です。当社では、「情報処理機器の適正管理規定」を定めています。就業規則の罰則規定とも連動しています。

7 システムは2重化しているからバックアップは要らない

最近のサーバのディスクは2重化されていますから、故障でデータが破壊される確率は小さくなっています。そこで企業によっては、バックアップを行わない会社を見受けられます。

確かに、ディスクの故障は無視できるかも知れませんが、データの破壊はあります。例えば、プログラムが誤ったデータ処理をした。人的操作で誤ってファイルを消した。これらは、処理時点で2重化したディスクの両方に伝播されます。この時点でデータ破壊です。ですから、必ずバックアップが必要です。

バックアップも前日分だけを取得するのではなく、世代という考え方が必要です。例えば、バックアップ媒体を曜日で分けるのです。月曜日のテープ、火曜日のテープというようにするのです。こうしておくで、誤った処理の発見が数日遅れて、前日のバックアップの内容が壊れていても、一週間前までには復旧できます。